



社 会 福 祉 法 人

七 穂 会

事業継続計画（BCP）

（第2版）

～もくじ～

| | |
|--|----|
| 基本計画..... | 1 |
| 1. 基本方針 | 1 |
| 2. 危機管理態勢 | 1 |
| 3. 重要業務 | 3 |
| 4. 平常時の対応 | 3 |
| 5. 研修・訓練 | 6 |
| 6. BCP の見直し | 7 |
| 7. 各施設備蓄品一覧 | 7 |
| 自然災害（地震） | 10 |
| 1. 被害想定 | 10 |
| 2. 地震直後の初動対応 | 11 |
| 3. 事業継続対応 | 14 |
| 4. 事業継続のための方針 | 15 |
| 5. 地震発生後の対応の流れ | 20 |
| 自然災害（風水害） | 21 |
| 1. 被害想定 | 21 |
| 2. 風水害直後の初動対応 | 24 |
| 3. 事業継続対応 | 39 |
| 4. 事業継続のための方針 | 40 |
| 5. 風水害発生後の対応の流れ | 44 |
| 感染症 | 45 |
| 1. 被害想定 | 45 |
| 2. 新型インフルエンザ（感染症等）発生直後の初動対応 | 46 |
| 3. 事業継続方針 | 46 |
| 4. 新型インフルエンザ（感染症等）発生後の対応の流れ | 48 |
| 別冊資料 | 49 |
| 1. 市町村別ハザードマップ | 49 |
| 2. 障害福祉サービス施設・事業所職員のための感染対策マニュアル | 49 |
| 改訂履歴 | 50 |

基本計画

1. 基本方針

(1) 目的

本計画は、自然災害や感染症が発生した状況において、利用者、職員及び家族の安全を確保するとともに、法人の事業を適切に継続することを目的とする。

(2) 適用範囲

本計画は、法人の全事業所に適用する。

(3) 基本方針

- ① 人命を守る
- ② 社会的に求められる機能を発揮する
- ③ 法人経営を適切に運営する
- ④ 地域・関係機関との連携・協力する

2. 危機管理態勢

(1) 危機管理体制の整備

理事長は、大規模な危機等が発生した時には、危機管理対策本部を設置する。

○構成

- ・本部長、副本部長、全事業所管理者、危機管理委員、その他対策本部長が必要と認める者

○内容

- ・当会における調整機能の確保
- ・当該事業所と協力し、関係者の安否の確認
- ・当該事業所と協力し、関係者の避難、救助
- ・各事業所との連絡システムを確保し、電気、ガス、水道、電話の等のライフラインの確保及び早期復旧
- ・外部機関等へ人材の派遣、医療、救護、救援物資の提供等の援助に係る協力依頼
- ・当該事業所と協力し、被害等に関する情報の収集及び伝達及び関係機関への報告
- ・当該事業所と連携・協力し、県・市町・その他関係機関との連絡調整
- ・理事会・評議員会との連絡・調整
- ・その他災害等への対応に関し必要な事項

(2) 担当と役割

危機対策本部各担当の役割と担当者・担当部署は以下のとおりとする。

| 対策本部の実施項目 | | 担当者 | 代行者 |
|--------------|---|--------------------|------|
| 分 類 | 主な項目 | | |
| 事業所内 支援活動 | 【総務関連】 <input type="checkbox"/> 備蓄品（非常食・生活用品）の配付 <input type="checkbox"/> 対策本部員・応援要員の支援（食事、宿泊等） <input type="checkbox"/> 建物・備品等の被害状況の確認 <input type="checkbox"/> 電気、ガス・水道、電話の等のライフラインの確保及び早期復旧 | 管理者・ 危機管理 委員 | 事務局員 |
| | 【人事関連】 <input type="checkbox"/> 職員およびその家族の安否確認 <input type="checkbox"/> 医療機関・保健所等との対応 <input type="checkbox"/> 理事・監事・評議員への連絡・報告 | 管理者・ 危機管理 委員 | 事務局員 |
| | 【情報システム関連】 <input type="checkbox"/> 各事業所との連絡システムの確保 <input type="checkbox"/> 情報システム環境の整備 <input type="checkbox"/> 通信連絡手段の確保 | 管理者・ 危機管理 委員 | 事務局員 |
| 業務運営活動 | 【事業継続関連】 <input type="checkbox"/> 利用者等関係者の安否確認 <input type="checkbox"/> 利用者等関係者の避難・救助 <input type="checkbox"/> 重要業務の復旧・休止指示 <input type="checkbox"/> 重要業務の継続および休止等の対応支援・指示 | 管理者・ 危機管理 委員 | 事務局員 |
| 法人外連携活動 | 【情報収集・調整関連】 <input type="checkbox"/> 地域の被害状況確認 <input type="checkbox"/> 県・各市町・業界団体、地域との調整 <input type="checkbox"/> 法人外への情報発信（災害伝言ダイヤル等） <input type="checkbox"/> ボランティア等の受け入れ | 管理者・ 危機管理 委員 | 事務局員 |
| | 【広報関連】 <input type="checkbox"/> マスコミ等への情報発信 <input type="checkbox"/> 外部関係機関等からの問合せ対応 | 管理者・ 危機管理 委員 | 事務局員 |

3. 重要業務

(1) 重要業務

災害発生時においても、優先的に継続もしくは復旧させる業務を以下の観点から選定した。

- ・利用者の生命を第一に考える
- ・住まいを提供する事業を優先する

【重要業務一覧】

| サービス名 | 業務名 |
|----------|--------------------------|
| 共同生活援助事業 | ①利用者への食事の提供、補水 |
| | ②利用者への清潔保持 衛生管理 看護、介助、支援 |
| | ③利用者への心のケア |
| | ④利用者への居住スペースの提供 |

(2) BCP 発動時の対応方針

- ・BCP を発動した際は、重要業務を優先的に継続もしくは復旧させるために、他の業務に従事している職員や必要な資材・資金等を、適宜重要業務へ振り分ける。

4. 平常時の対応

4-1 地震・風水害

各事業所において、建物及び設備の危険点検を日頃から行うとともにその都度ハード面及びソフト面の対策を行う。

(1) ハード面の対策

① 建物周囲・境界

- ・周辺フェンスの損傷、劣化、補給の必要などはないか点検し必要があれば補修する。
- ・周辺の排水路でつまりや埋め立てられているところはないか。
- ・屋根の状態点検及び危険箇所の補修をする。
- ・外壁、門、塀の状態点検及び必要な補強をする。
- ・看板等の落下防止、物置や老木等の倒壊危険物の補強・除去等をする。

② 建物

- ・建物床部外壁の点検を行い、予想浸水高以内に窓通気口がある場合は埋め戻す。
- ・亀裂損傷部分があれば補修する。
- ・消火器の設置場所の確認をする。

③ 機械設備(屋内)

- ・移動可能な設備は緊急時に移動すべき高所をあらかじめ決めておく。
- ・設備の耐震性の確認をする。
- ・什器・備品類の転倒、転落、破損等防止措置はとられているか確認する。

④ 屋外機械設備

・移設可能なものは高所に移設する。

⑤ コンピュータ・重要書類(個人情報・記録等)

- ・コンピュータ・個人情報は復旧に時間がかかるので可能な限り高所で使用・保管を行う。
- ・データのバックアップを頻繁に行い、浸水危険のない場所に保管する。
- ・重要書類が損傷する恐れのある場合、事業所内の安全な場所に移動するか事業所外へ持ち出す。

(2) ソフト面の対策

① 職員の確保

参集可能な確認方法は以下の通り

(参集可能な範囲は徒歩圏と設定/2.5 km/h)

② 連絡網の整備と参集について

- ・SNS等活用した安否確認システムを利用して安否確認を行う。
- ・上記安否確認システムを利用できない職員で、通信機器が使用できない場合は24時間以内に当該事業所に出勤する。(自動的に参集)
- ・各事業所の連絡網を必要に応じて使用する

③ 備蓄

- ・各事業所において、以下の備蓄内容及び備蓄品を確保する。(別紙参照)

④ 水の確保

- ・生活用水確保のためタンク、ポンプを準備しておく。

⑤ SNS等活用した安否確認システムの運用

- ・法人LINEグループ、事業所LINEグループを事前に作成する。

4-2 感染症

平時から、病原性の高い新型インフルエンザ(感染症等)の発生・流行に備え、海外発生期～国内発生早期～回復期及び小康期のそれぞれの段階における対応策を策定し、法人内での感染者発生の抑制および感染拡大の防止に努める。

(1) 事前準備

新型インフルエンザの発生に備え、以下の事前準備を行う。

| 対 応 内 容 | |
|---------|-------------------|
| 情報収集 | ・ 厚生労働省 |
| | ・ 外務省 |
| | ・ 国立感染症研究所 |
| | ・ 新潟県・新発田保健所 |
| | ・ インターネット・テレビ・新聞等 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 保健所等の連絡先 | ・新発田保健所 |
| 公衆衛生対策 | ・手洗い・うがい |
| 生活必需品等の備蓄 | ・医療品・衛生用品 |
| | ・備蓄食（飲料水等） |
| ワクチン接種の奨励 | ・季節性インフルエンザワクチン接種の奨励 |

（２） 新型インフルエンザ等（感染症等）の発生情報を入した場合の対応

① 海外発生期の相当

新型インフルエンザ（感染症等）の発生に備え、以下の事前準備を行う。

| 対 応 内 容 | |
|-------------------|------------------------|
| 情報収集 | ・厚生労働省 |
| | ・外務省 |
| | ・国立感染症研究所 |
| | ・新潟県・新発田保健所 |
| | ・インターネット・テレビ・新聞等 |
| 海外渡航の制限措置 | ・発生国への海外渡航自粛 |
| 発生国からの 帰国者への対応 | ・帰国者への健康管理 |
| 従業者への周知 | ・新型インフルエンザに関する知識、情報の伝達 |
| 公衆衛生 | ・医療品・衛生用品 |
| | ・備蓄食（飲料水等） |

② 国内発生早期～拡大期～蔓延期～回復期に相当

新型インフルエンザ（感染症等）の発生に備え、以下の事前準備を行う。

| 対 応 内 容 | |
|-----------|---------------|
| 公衆衛生対策 | ・手洗い、うがいの実施 |
| | ・通常のマスク着用 |
| 感染機会の低減 | ・時差通勤、通勤手段の変更 |
| | ・出張の自粛 |
| | ・不要な外出の自粛 |
| 利用基準の変更 | ・利用前検温、体調チェック |
| 濃厚接触者への対応 | ・自宅待機 |

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 感染者への対応 | ・新発田保健所への相談 |
| | ・感染者の隔離 |
| 関係機関への報告 | ・新発田保健所への相談 |
| | ・新潟県障害福祉課・新潟県障害福祉課在宅支援係・新潟県障害福祉課自立支援係 |
| | ・胎内市福祉介護課・新発田社会福祉課・阿賀野市社会福祉課 |
| | ・新発田保健所 |

※各関係機関の連絡先

| 機関名 | 電話番号 |
|-----------------|--------------|
| 新発田保健所 | 0254-26-9165 |
| 新潟県障害福祉課在宅支援係 | 025-280-5228 |
| 新潟県障害福祉課自立支援係 | 025-280-5918 |
| 胎内市福祉介護課（代表） | 0254-43-6111 |
| 新発田社会福祉課障がい福祉係 | 0254-28-9251 |
| 阿賀野市社会福祉課障がい福祉係 | 0250-61-2476 |

③ 国内小康期に相当

新型インフルエンザ（感染症等）の発生に備え、以下の事前準備を行う。

| 対 応 内 容 | |
|-----------|---------------|
| 公衆衛生 | ・手洗いうがいの実施 |
| 関連情報収集 | ・第1波の発生原因等の情報 |
| | ・第2波に備えた情報収集 |
| 第2波に備えた準備 | ・備蓄の補充 |
| | ・第1波の対応の見直し |

（3） 報告

上記の新型インフルエンザ（感染症等）の発生を入手した場合であって、上記(2)②に該当すると理事長が判断した場合、全事業所は本部事務局へ前日の利用者総数と利用者発症人数及び職員の総数と職員発症人数を当日午前 10 時 00 分までに FAX もしくはメール等で報告する。

5. 研修・訓練

BCP の概要や重要性について法人内に周知させるため、定期的に職員に研修を実施する。また本 BCP に示す対応を法人内に根付かせ、BCP の実効性を向上させるため、定期的に訓練を実施する。

6. BCP の見直し

BCP の実効性を維持するため、定期的に BCP 全体にわたる見直しを実施する。併せて、教育・訓練の結果や組織変更等によって BCP を見直す必要が出た際にも、随時 BCP の見直し・修正を実施する。

7. 各施設備蓄品一覧

●虹の家

| | 品 目 | 数 量 |
|---------------|----------------|-----------|
| 食 品 | 精白米 | 10kg |
| | 飲料水 | 2ℓ 30本 |
| | 飲料水 | 500ml120本 |
| | 保存用ビスコ | 1箱60袋 |
| | マリービスケット | 2箱 |
| | 野菜ジュース（常温保存） | 3ケース |
| | 果物缶詰 | 1号缶4缶 |
| 機 材 | ガスコンロ | 3口 |
| | プロパンガス | 20kg2本 |
| 消 耗 品 ・ 衛 生 品 | ハイゼックス個装食炊き出し袋 | 100枚 |
| | 割りばし | 200膳 |
| | 紙コップ | 200個 |
| | 使い捨て容器 | 200枚 |
| | 缶切り | 1個 |
| | 調理用手袋 | 300枚 |
| | ペーパータオル | 500枚 |
| | マスク | 50枚入2箱 |
| | 手洗い用水 | 2ℓ 10本 |
| | 消毒用エタノール | 2ℓ |
| | 次亜塩素酸ナトリウム溶液 | 5ℓ |

●すばるワークセンター

| | 品 目 | 数 量 |
|---------------|----------|--------|
| 食 品 | 精白米 | 30kg |
| | 飲料水 | 2ℓ 60本 |
| 機 材 | 2口コンロ | 2個 |
| | ガス炊飯器 | 1個 |
| 消 耗 品 ・ 衛 生 品 | 使い捨てスプーン | 100本 |
| | 割り箸 | 100膳 |
| | 紙コップ | 100個 |
| | 使い捨て容器 | 100枚 |
| | 調理用手袋 | 100枚 |
| | マスク | 100枚 |
| | 消毒用エタノール | 4ℓ |

●ハートワークくろかわ

| | 品 目 | 数 量 |
|---------|-----------|---------|
| 食品 | 白ご飯 | 108食 |
| | 野菜レトルトカレー | 90食 |
| | 飲料水 | 2ℓ 48本 |
| | 保存用ビスコ | 1箱60袋 |
| 機材 | カセットコンロ | 2個 |
| | ガスボンベ | 3本 |
| 消耗品・衛生品 | スプーン | 50個 |
| | 割りばし | 50膳 |
| | 紙コップ | 50個 |
| | 使い捨て容器 | 200枚 |
| | 調理用手袋 | 50枚 |
| | マスク | 50枚入り1箱 |
| | 消毒用エタノール | 4ℓ |

●ふれ愛しうんじ

| | 品 目 | 数 量 |
|---------|----------|---------|
| 食品 | 精白米 | 30kg |
| | カレー | 60食 |
| | 保存用ビスコ | 10缶60袋 |
| | 水 | 2ℓ 80本 |
| 機材 | ガスコンロ | 1口 |
| | プロパンガス | 20kg×2本 |
| 消耗品・衛生品 | 使い捨てスプーン | 50本 |
| | 割り箸 | 50膳 |
| | 紙コップ | 50個 |
| | 使い捨て容器 | 50枚 |
| | 調理用手袋 | 1箱(50入) |
| | マスク | 1箱(50入) |
| | 消毒用エタノール | 4ℓ |

●虹の家第一寮一号棟

| | 品 目 | 数 量 |
|---------|----------|--------|
| 食品 | 精白米 | 10kg |
| | レトルトカレー | 30食 |
| | 飲料水 | 2ℓ 20本 |
| 機材 | カセットコンロ | 1台 |
| | カセットボンベ | 6本 |
| 消耗品・衛生品 | 使い捨てスプーン | 50本 |
| | 割り箸 | 50膳 |
| | 紙コップ | 50個 |
| | 使い捨て容器 | 50枚 |
| | 使い捨て手袋 | 50枚 |
| | マスク | 50枚 |
| | 消毒用エタノール | 2ℓ |

●虹の家第一寮二号棟

| | 品 目 | 数 量 |
|---------|----------|--------|
| 食品 | 精白米 | 10kg |
| | レトルトカレー | 30食 |
| | 飲料水 | 2ℓ 20本 |
| 機材 | カセットコンロ | 1台 |
| | カセットボンベ | 6本 |
| 消耗品・衛生品 | 使い捨てスプーン | 50本 |
| | 割り箸 | 50膳 |
| | 紙コップ | 50個 |
| | 使い捨て容器 | 50枚 |
| | 使い捨て手袋 | 50枚 |
| | マスク | 50枚 |
| | 消毒用エタノール | 2ℓ |

●グループホーム光風

| | 品 目 | 数 量 |
|---------------------------------|----------|--------|
| 食 品 | 精白米 | 10kg |
| | レトルトカレー | 30食 |
| | 飲料水 | 2ℓ 20本 |
| 機 材 | カセットコンロ | 1台 |
| | カセットボンベ | 6本 |
| 消 耗 品 ・ 衛 生 品 | 使い捨てスプーン | 50本 |
| | 割り箸 | 50膳 |
| | 紙コップ | 50個 |
| | 使い捨て容器 | 50枚 |
| | 使い捨て手袋 | 50枚 |
| | マスク | 50枚 |
| | 消毒用エタノール | 2ℓ |

●なないろキッズたいない
なし

●なないろキッズしばた
なし

●なないろキッズついじ
なし

●相談支援センターゆう
なし

自然災害（地震）

1. 被害想定

（１） 想定する災害

震度６弱以上の地震を想定する。

（２） 想定される被害状況

上記地震が発生した場合の被害状況を、以下のとおり想定する。

<周辺の被害状況>

| 項目 | 想定される被害内容 | |
|------------------------|---|---|
| 電気 | ●発災から３日間程度停電する。 | |
| 上下水道 | ●発災から２週間程度停止する。 | |
| ガス | ●発災から１ヶ月程度停止する。 | |
| 情報通信 (固定電話、インターネット) | 【固定電話】 ●通信規制のため、１週間程度はつながりにくくなる。 | 【インターネット】 ●停電やケーブル断線のため、１週間程度使用できない。 |
| 情報通信 (携帯電話：通話・メール) | 【通話機能】 ●地震発生から１週間程度はつながりにくくなる。 | 【メール機能】 ●遅配するものの当日から使用できる。 |
| 道路 | ●高速道路や一部の幹線道路は、緊急輸送車両以外の通行が禁止され、被害の少ない地域から徐々に一般車両の通行が再開する。 ●その他の道路では、車両の混雑の影響で渋滞が発生する。 | |
| 鉄道 | ●３日程度は鉄道の運行が完全に停止し、被害状況の確認後被害の少ない地域から順次運行を再開する。 | |
| 物流 | ●緊急輸送物資以外の輸送は困難な状況が続く。 | |
| 燃料 | ●ガソリンスタンドの営業停止や輸送能力の低下により、燃料が不足する。 | |

<法人の被害状況>

| 項目 | 想定される被害内容 |
|--------------------------------|---|
| 利用者 | ●設備・什器類の移動・転倒や、耐震性の低い建物の大破・倒壊等によって、一部の利用児・者が負傷する。 |
| 職員 | ●設備・什器類の移動・転倒や、耐震性の低い建物の大破・倒壊等によって、一部の職員が負傷する。 ●交通機関の停止や職員および職員家族の負傷により、一部の職員の出勤ができなくなる。 |
| 建物 (壁、柱、床、梁、屋根、 階段等) | ●耐震性の低い建物に、大破・倒壊等の大きな被害が発生する。 ●建物自体が被害を受けなくても、天井の一部が落下したり、蛍光灯・窓ガラスの一部が落下・飛散する被害が発生する。 ※耐震性が低い建物の目安は、1981 年以前に建てられた建物で、耐震補強がされていないもの。 ●地盤が液状化した場合、建物に傾斜等の被害が発生する。 |
| 設備・什器類（製造設備、 P C、コピー機、ラック等） | ●固定していない設備・什器類が移動・転倒する。 ●公用車等、使用不可（破損等） |
| 情報・データ | ●NASが転倒・損傷する。 ●バックアップを取っていないデータが失われる。 |
| 資金 | ●事業が停止した場合、収益が減少する。 ●建物・設備等の被災により、修繕・再調達費用等が発生する。 |

2. 地震直後の初動対応

(1) 危機対策本部の設置

以下の事態が発生した場合に、危機対策本部を設置する

- ・拠点で震度6弱以上の地震が発生した場合
- ・理事長もしくは危機管理委員長が緊急に対応する必要があると認めた場合
(危機対策本部設置後の職員の初動対応)
- ・職員において、通信機器等が使用できない場合は、24 時間以内に当該事業所に出勤し安否確認を行う。
- ・危機対策本部が立ち上がると、危機対策本部要員は事業所被害状況・利用者・職員の安否確認等が取れ次第、自動的に参集する。なお、就業時間外に発災した場合においても同様とする。
(危機対策本部設置後の危機対策本部の初動対応)

・危機対策本部要員は各事業所の管理者並びに危機対策委員の2名とするが、事業所利用者・職員の安否確認を最優先とすることから、その場合は各事業所管理者から推薦のあった2名を危機対策本部要員とする。

・通信機器等が使用不可能な場合においては、危機対策本部への連絡・報告手段を確保するとともに、地震発生から概ね2時間以内には危機対策本部要員を派遣する。

危機対策本部の設置場所は以下のとおりとする。

- ・第一候補：法人本部（虹の家）
- ・第二候補：ふれ愛しうんじ
- ・第三候補：ハートワークくろかわ

（２） 初動対応

地震発生後における初動対応を以下のとおり定める。

| 項目 | 対応内容 |
|-----------------------|--|
| 安否確認 | <p>●利用児・者の安否を確認する。</p> <p>●職員とその家族の安否を確認する。</p> <p>・安否確認手段：SNS・電話・メール・災害用伝言ダイヤル171</p> <p>上記で安否確認がとれない場合は発生後24 時間以内に各事業所へ来る。</p> |
| 利用児・者・ 職員の帰宅/ 残留支援 | <p>～利用児・者～</p> <p>●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。</p> <p>・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。：家族に直接引き継げる時。</p> <p>●通所利用児・者に対して帰宅支援を行う</p> <p>・支援内容：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。：家族に直接引き継げる時。</p> <p>●事業所へ残留する利用児・者に対して支援を行う</p> <p>・支援内容：居住スペース・医薬品・寝具・水・食料等の提供</p> <p>～職員～</p> <p>●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。</p> |

| | |
|-----------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。 ●事業所へ残留する職員に対して支援を行う ・支援内容：水・食料等の提供・備蓄品・医薬品等 ～その他～ ●受入れの判断を実施し、受け入れる場合は支援を行う。 |
| 被害状況の確認 | <ul style="list-style-type: none"> ●拠点内の被害状況を確認する。 ・確認事項：建物・水・ガス・電気・電話 |
| 二次災害の防止措置 | <ul style="list-style-type: none"> ●二次災害発生の恐れのある箇所に対して、二次災害の発生防止措置を施す。 ・防止措置：火災による消火活動・余震、降雨等による水害、土砂災害等の危険個所の点検・ガス等の供給コックやバルブの閉鎖、建物被害への修繕 |
| 被害情報の収集 | <ul style="list-style-type: none"> ●地震関連情報を収集する。 ・確認事項：公共放送・インターネット・最寄りの消防署・警察署等による情報収集 ●（各事業所の被災が複数ある場合）被害状況を確認・集約する。 ●（取引先が被災地に所在する場合）取引先の被害状況を確認する。 |
| 対外的な情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ●各関係機関等へ被害状況について連絡する。 ・連絡手段：電話・メール・自動車・徒歩等により連絡 |

3. 事業継続対応

(1) BCP の発動基準

BCP の発動および解除は危機対策本部長が指示する。

| 段階 | 発動基準 |
|-------|--|
| BCP発動 | <p>以下の指標を総合的に勘案して、事業の継続に著しい影響があると判断される場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通網の寸断や職員の負傷等による出勤可能な職員の不足 ・ 法人所有建物や設備等の被害状況 ・ 電気・上下水道・ガス・通信等の重要インフラの途絶 ・ 食糧等の状況 |
| BCP解除 | 上記指標等の障害が回復し、事業への支障が解消したと判断される場合 |

(2) 目標復旧時間と目標復旧レベル

大規模災害（危機）発生時における継続・早期復旧すべき事業とそれらの目標復旧時間を法人全体分で以下のように定める。また、目標復旧時間は、A(即時)・B(一ヶ月以内)C(二ヶ月以内)に区分する。

| 事業所名 | 優先順位 | 目標復旧時間 |
|-------------|------|--------|
| 虹の家第一寮一号棟 | 最優先 | A |
| 虹の家第一寮二号棟 | 最優先 | A |
| グループホーム光風 | 最優先 | A |
| 虹の家 | 1 | B |
| すばるワークセンター | 2 | B |
| ハートワークくろかわ | 3 | B |
| ふれ愛しうんじ | 4 | B |
| なないろキッズたいない | 5 | C |
| なないろキッズついじ | 6 | C |
| なないろキッズしばた | 7 | C |
| 相談支援センターゆう | 8 | C |

4. 事業継続のための方針

(1) 重要施設被災時の事業継続戦略

●虹の家第一寮一号棟

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|-----------|---|
| ① | 現地復旧 | □被災拠点を復旧する。 ※建物の倒壊若しくは、倒壊のおそれのあるものは除く。 |
| ② | 二号棟で機能を代替 | □一号棟で損失した機能を、二号棟で代替する。 |
| ③ | 虹の家で機能を代替 | □一号棟で損失した機能を、虹の家で代替する。 |
| ④ | ふれすぽ胎内に避難 | □現地が大規模に被災し復旧まで時間がかかる場合、一時的にふれすぽ胎内に避難する。 |

※応援職員は虹の家職員が当たる

●虹の家第一寮二号棟

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|-----------|---|
| ① | 現地復旧 | □被災拠点を復旧する。 ※建物の倒壊若しくは、倒壊のおそれのあるものは除く。 |
| ② | 一号棟で機能を代替 | □二号棟で損失した機能を、一号棟で代替する。 |
| ③ | 虹の家で機能を代替 | □二号棟で損失した機能を、虹の家で代替する。 |
| ④ | 中条小学校に避難 | □現地が大規模に被災し復旧まで時間がかかる場合、一時的に中条小学校に避難する。 |

※応援職員は虹の家職員が当たる

●グループホーム光風

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|------------------|--|
| ① | 現地復旧 | □被災拠点を復旧する。 ※建物の倒壊若しくは、倒壊のおそれのあるものは除く。 |
| ② | すばるワークセンターで機能を代替 | □グループホーム光風で損失した機能を、すばるワークセンターで代替する |
| ③ | かがやき苑体育館に避難 | □現地が大規模に被災し復旧まで時間がかかる場合、一時的にかがやき苑体育館に避難する。 |

※応援職員はすばるワークセンター職員が当たる

(2) 通所事業等被災時の事業継続戦略

下表の優先順位に従い再開準備を進める。

| 事業所名 | 優先順位 | 目標復旧時間 |
|-------------|------|--------|
| 虹の家 | 1 | B |
| すばるワークセンター | 2 | B |
| ハートワークくろかわ | 3 | B |
| ふれ愛しうんじ | 4 | B |
| なないろキッズたいない | 5 | C |
| なないろキッズついじ | 6 | C |
| なないろキッズしばた | 7 | C |
| 相談支援センターゆう | 8 | C |

(3) 通所事業等再開に必要な経営資源

●虹の家

| 必要な経営資源 | 必要な経営資源の詳細 |
|---------|----------------------------------|
| 職員 | 支援員等7人以上・調理員1人以上 |
| 施設 | 日中過ごせるスペース等（食堂・作業場・トイレ・シャワー室）の確保 |
| 設備 | 調理に必要な設備・職員業務に必要な設備 |
| 備品 | 食器・テーブル・イス |
| 食糧 | 食材 |
| 消耗品 | 日用品等 |
| 医療品 | 医薬品等・衛生品・車いす |
| ライフライン | 電気・水道・ガス・道路整備 |
| 情報/伝達 | 緊急時の連絡が行えるように固定電話の復旧 |
| 車両 | 送迎車1台以上 |

●すばるワークセンター

| 必要な経営資源 | 必要な経営資源の詳細 |
|---------|----------------------------|
| 職員 | 支援員等4人以上・調理員1人 |
| 施設 | 日中過ごせるスペース等（食堂・作業場・トイレ）の確保 |
| 設備 | 調理に必要な設備・職員業務に必要な設備 |
| 備品 | 食器・テーブル・イス |

| | |
|--------|----------------------|
| 食糧 | 食材 |
| 消耗品 | 日用品等 |
| 医療品 | 医薬品等・衛生品 |
| ライフライン | 電気・水道・ガス・道路整備 |
| 情報 | 緊急時の連絡が行えるように固定電話の復旧 |
| 車両 | 送迎車 1 台以上 |

●ハートワークくろかわ

| 必要な経営資源 | 必要な経営資源の詳細 |
|---------|----------------------------------|
| 職員 | 支援員等 4 人以上・調理員 1 人以上 |
| 施設 | 日中過ごせるスペース等（食堂・作業場・トイレ・シャワー室）の確保 |
| 設備 | 職員業務に必要な設備 |
| 備品 | 食器・テーブル・イス |
| 食糧 | 非常食材 |
| 消耗品 | 日用品等 |
| 医療品 | 医薬品等・衛生品 |
| ライフライン | 電気・水道・ガス・道路整備 |
| 情報 | 緊急時の連絡が行えるように固定電話の復旧 |
| 車両 | 送迎車 1 台以上 |

●ふれ愛しうんじ

| 必要な経営資源 | 必要な経営資源の詳細 |
|---------|----------------------------------|
| 職員 | 支援員等3人以上・調理員 1 人以上 |
| 施設 | 日中過ごせるスペース等（食堂・作業場・トイレ・シャワー室）の確保 |
| 設備 | 調理に必要な設備・職員業務に必要な設備 |
| 備品 | 食器・テーブル・イス |
| 食糧 | 食材 |
| 消耗品 | 日用品等 |
| 医療品 | 医薬品等・衛生品・車いす |
| ライフライン | 電気・水道・ガス・道路整備 |
| 情報 | 緊急時の連絡が行えるように固定電話の復旧 |

| | |
|----|-----------|
| 車両 | 送迎車 1 台以上 |
|----|-----------|

●なないろキッズたいない

| 必要な経営資源 | 必要な経営資源の詳細 |
|---------|--------------------------------|
| 職員 | 児童指導員等 2 人以上 |
| 施設 | 日中過ごせるスペース等（指導訓練室・トイレ・手洗い場）の確保 |
| 設備 | 職員業務に必要な設備 |
| 備品 | テーブル |
| 食糧 | なし |
| 消耗品 | 日用品等 |
| 医療品 | 衛生品 |
| ライフライン | 電気・水道・道路整備 |
| 情報 | 緊急時の連絡が行えるように固定電話の復旧 |
| 車両 | 送迎車 1 台以上 |

●なないろキッズしばた

| 必要な経営資源 | 必要な経営資源の詳細 |
|---------|--------------------------------|
| 職員 | 児童指導員等 2 人以上 |
| 施設 | 日中過ごせるスペース等（指導訓練室・トイレ・手洗い場）の確保 |
| 設備 | 職員業務に必要な設備 |
| 備品 | テーブル |
| 食糧 | なし |
| 消耗品 | 日用品等 |
| 医療品 | 衛生品 |
| ライフライン | 電気・ガス・水道・道路整備 |
| 情報 | 緊急時の連絡が行えるように固定電話の復旧 |
| 車両 | 送迎車 1 台以上 |

●なないろキッズついじ

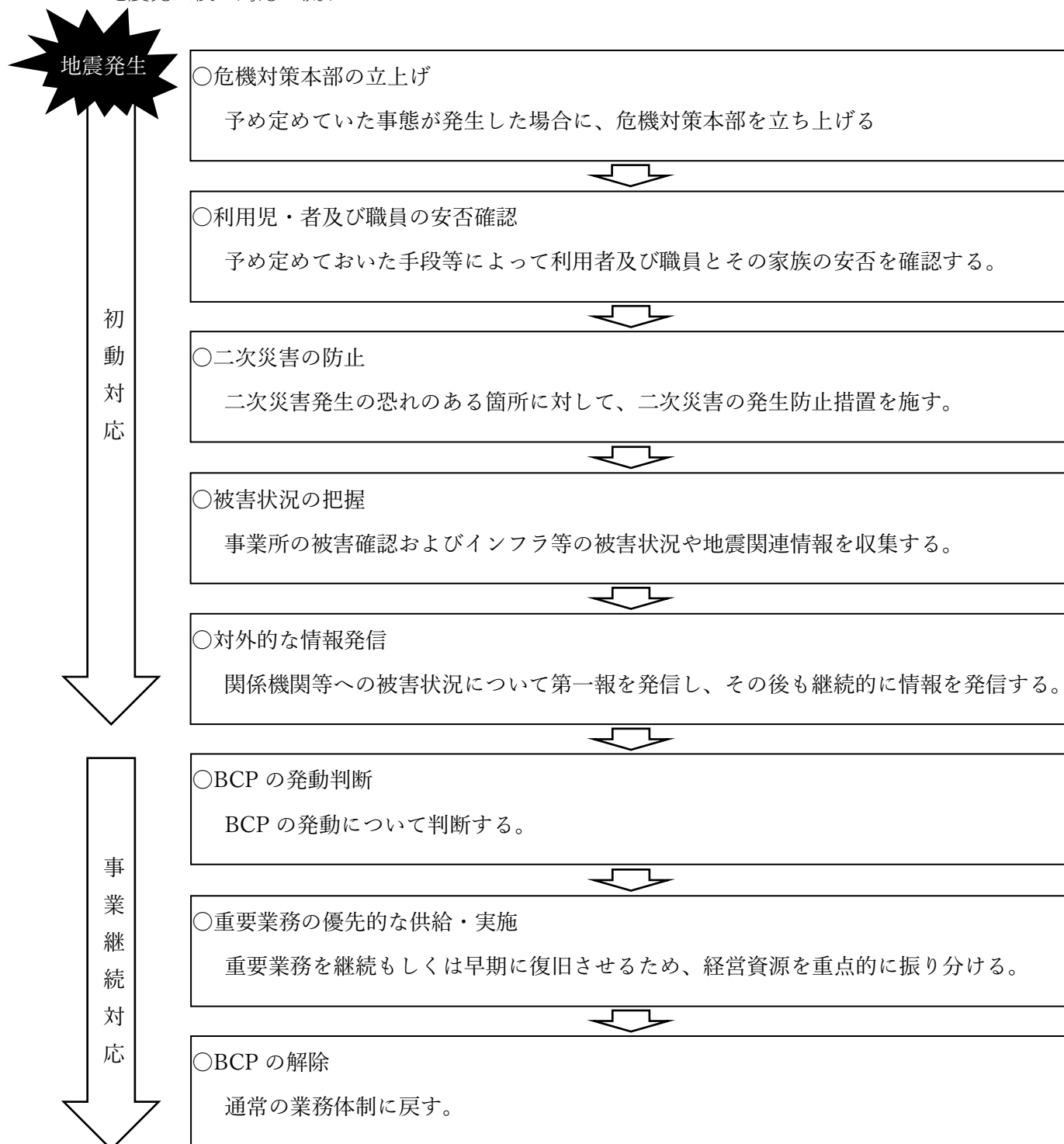
| 必要な経営資源 | 必要な経営資源の詳細 |
|---------|--------------|
| 職員 | 児童指導員等 2 人以上 |

| | |
|--------|--------------------------------|
| 施設 | 日中過ごせるスペース等（指導訓練室・トイレ・手洗い場）の確保 |
| 設備 | 職員業務に必要な設備 |
| 備品 | テーブル |
| 食糧 | なし |
| 消耗品 | 日用品等 |
| 医療品 | 衛生品 |
| ライフライン | 電気・ガス・水道・道路整備 |
| 情報 | 緊急時の連絡が行えるように固定電話の復旧 |
| 車両 | 送迎車 1 台以上 |

●相談支援センターゆう

| 必要な経営資源 | 必要な経営資源の詳細 |
|---------|--------------|
| 職員 | 相談支援専門員 2 名 |
| 施設 | 事務作業ができるスペース |
| 設備 | 職員業務に必要な設備 |
| 備品 | 机・イス |
| 食糧 | なし |
| 消耗品 | なし |
| 医療品 | なし |
| ライフライン | 電気・水道 |
| 情報 | 携帯通信網の復旧 |
| 車両 | 訪問用車両 1 台以上 |

5. 地震発生後の対応の流れ



自然災害（風水害）

1. 被害想定

（1） 想定する災害

| 事業所名等 | 想定する災害 |
|-------------|--|
| 虹の家 | <p>○胎内川水系浸水想定区域。事業所は浸水しない想定だが、周辺地域は浸水が想定される。</p> <p>○土間は低い位置にあり、大雨による浸水が想定される。</p> <p>○台風等の暴風による窓ガラスの破損又は樹木や家屋の倒木・倒壊の被害が想定される。</p> |
| すばるワークセンター | <p>○阿賀野川水系浸水想定区域。事業所は2階なので浸水しないが、1階および周辺地域の浸水が想定される。</p> <p>○台風等の暴風による窓ガラスの破損又は樹木や家屋の倒木・倒壊の被害が想定される。</p> |
| ハートワークくろかわ | <p>○警報級の大雨には山のふもとの立地から土砂災害の可能性が想定される。</p> <p>○台風等の暴風による窓ガラスの破損又は樹木や家屋の倒木・倒壊の被害が想定される。</p> |
| ふれ愛しうんじ | ○台風等の暴風による窓ガラスの破損又は樹木や家屋の倒木・倒壊の被害が想定される。 |
| 虹の家第一寮一号棟 | <p>○胎内川水系浸水想定区域。事業所の浸水が想定される。</p> <p>○台風等の暴風による窓ガラスの破損又は樹木や家屋の倒木・倒壊の被害が想定される。</p> |
| 虹の家第一寮二号棟 | <p>○落堀川水系浸水想定区域。事業所の浸水が想定される。</p> <p>○台風等の暴風による窓ガラスの破損又は樹木や家屋の倒木・倒壊の被害が想定される。</p> |
| グループホーム光風 | ○台風等の暴風による窓ガラスの破損又は樹木や家屋の倒木・倒壊の被害が想定される。 |
| なないろキッズたいない | <p>○落堀川水系浸水想定区域。事業所の浸水が想定される。</p> <p>○台風等の暴風による窓ガラスの破損の被害が想定される。</p> |
| なないろキッズしばた | <p>○加治川水系浸水想定区域。事業所の浸水が想定される。</p> <p>○台風等の暴風による窓ガラスの破損の被害が想定される。</p> |
| なないろキッズついじ | ○台風等の暴風による窓ガラスの破損又は樹木や家屋の倒木・倒壊の被害が想定される。 |

| | |
|------------|--|
| 相談支援センターゆう | <p>○阿賀野川水系浸水想定区域。事業所の浸水が想定される。</p> <p>○台風等の暴風による窓ガラスの破損又は樹木や家屋の倒木・倒壊の被害が想定される。</p> |
|------------|--|

(2) 想定される被害状況

上記風水害が発生した場合の被害状況を、以下のとおり想定する。

<周辺の被害状況>

| 項目 | 想定される被害内容 | |
|-------------------------|--|--|
| 電気 | <p>●発災から1～2週間程度停電する。</p> <p>※被災状況による。（東北電力確認）</p> | |
| 上下水道 | <p>●発災から最長で1～2週間程度停止する。</p> <p>※被災状況による。（各市町村確認）</p> | |
| ガス | <p>●発災から1～2週間程度停止する。</p> <p>※被害状況にもよる。（各ガス会社確認）</p> | |
| 情報通信 (固定電話、インターネット) | <p>【固定電話】</p> <p>●通信規制のため、1～2週間程度はつながりにくくなる。</p> <p>※被害状況にもよる。</p> | <p>【インターネット】</p> <p>●停電やケーブル断線のため、1～2週間程度使用できない。</p> <p>※被害状況にもよる。</p> |
| 情報通信 (携帯電話：通話・メール機能) | <p>【通話機能】</p> <p>●問題なし</p> | <p>【メール機能】</p> <p>●問題なし</p> |
| 道路 | <p>●土砂・水害等により、寸断される可能性がある。</p> | |
| 利用児・者 | <p>●建物内への水の進入により、一部の利用児・者が負傷する。</p> <p>●利用者が流され、溺れる危険がある。</p> <p>●建物内への土砂の進入により、一部の利用児・者が負傷する。</p> <p>●暴風雨の飛来物による、一部の利用児・者が負傷する。</p> | |
| 職員 | <p>●建物内への水の進入により、一部の職員が負傷する。</p> | |

| | |
|--------------------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ●職員が流され、溺れる危険がある。 ●建物内への土砂の進入により、一部の職員が負傷する。 ●暴風雨の飛来物により、一部の職員が負傷する。 |
| 建物 (壁、柱、床、梁、屋根、 階段等) | <ul style="list-style-type: none"> ●浸水、土石流により破損、大破 ●浸水等により、汚水等が氾濫する。 ●暴風雨による屋根の破損、飛来物による窓ガラス、壁、建物の破損 |
| 設備・什器類（製造設備、 P C、コピー機、ラック等） | <ul style="list-style-type: none"> ●固定していない設備・什器類が水没、破損、流される。 ●公用車等、使用不可（水没・飛来物による破損等） |
| 情報・データ | <ul style="list-style-type: none"> ●未固定の基幹システムやサーバが水没・破損する。 ●バックアップを取っていないデータが失われる。 |
| 資金 | <ul style="list-style-type: none"> ●事業が停止した場合、収益が減少する。 ●建物・設備等の被災により、修繕・再調達費用等が発生する。 |

(3) 危険地域等

○胎内川水系浸水想定区域内にある施設一覧

| 事業所名 | 住所 |
|-----------|-------------|
| 虹の家 | 胎内市西条412番地4 |
| 虹の家第一寮一号棟 | 胎内市西条町2番22号 |

○加治川水系浸水想定区域内にある施設一覧

| 事業所名 | 住所 |
|------------|--------------------|
| なないろキッズしばた | 発田市新発田市大手町1丁目7番11号 |

○落堀川水系浸水想定区域内にある施設一覧

| 事業所名 | 住所 |
|-------------|-------------|
| 虹の家第一寮二号棟 | 胎内市西栄町5番35号 |
| なないろキッズたいない | 胎内市表町5番27号 |

○阿賀野川水系浸水想定区域内にある施設一覧

| 事業所名 | 住所 |
|------------|--------------|
| すばるワークセンター | 阿賀野市若葉町3番33号 |
| 相談支援センターゆう | 阿賀野市若葉町3番33号 |

2. 風水害直後の初動対応

(1) 危機対策本部の設置

以下の事態が発生した場合に、危機対策本部を設置する。

- ・死亡者、行方不明又は重傷者が発生した場合
- ・事業所に被害が発生した場合であって、被害の拡大の恐れがあるとき。
- ・複数の事業所で負傷者が発生し、又は施設に被害が発生した場合

危機対策本部の設置場所は以下のとおりとする。

- ・第一候補：法人本部（虹の家）
- ・第二候補：ふれ愛しうんじ
- ・第三候補：ハートワークくろかわ

危機対策本部の業務内容は以下のとおりとする。

- ・事業所等との調整機能の確保を行う。
- ・当該事業所と協力し、関係者の安否の確認を行う。
- ・当該事業所と協力し、関係者の避難。救助を行う。
- ・電気・ガス・水道・電話等のライフラインの確保及び早期復旧作業を行う。
- ・外部機関への人材派遣、医療、救護、救援物資の提供の援助に係る協力依頼を行う。
- ・当該事業所と協力して、被害等に関する情報の収集および伝達を行う。
- ・関係機関への連絡・調整・報告を行う。
- ・理事会・評議員会への報告を行う。
- ・その他災害等への対応に関して必要な事項を行う。

危機対策本部設置後の職員の初動対応は以下のとおりとする。

○危機対策本部より各事業所へ一斉災害時連絡メールにより、当該関係者へ連絡、報告する。

○対策本部関係者のみの参集の場合

- ・危機対策本部要員は当該事業所を除く各事業所の管理者並びに危機対策委員の2名とする。
- ・通信機器等が使用不可能な場合においては、発生から概ね2時間以内には危機対策本部へ参集する。

○当該事業所以外の全職員を参集する場合

- ・一斉災害連絡メールを受けた関係者は、各事業所の非常連絡網等により、全職員へ連絡の上、危機対策本部へ参集する。
- ・通信機器等が使用不可能な場合においては、連絡から概ね2時間以内には危機対策本部へ参集する。

(2) 初動対応

風水害発生後における初動対応を以下のとおり定める。

●虹の家

| 項目 | 対応内容 |
|----------------------|--|
| 避難 | <p>●水害発生時</p> <p>(事業所開所時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胎内市のハザードマップ記載の浸水深0mから0.5m <p>すぐに避難せず、事業所でテレビやラジオ等で情報の収集にあたる。状況を見極めふれすば胎内2階へ避難する。</p> |
| 安否確認 | <p>●利用者・家族及び職員の安否確認</p> <p>(事業所開所時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者を各組ごとで点呼し、一組作業場へ移動する ・けがの有無を確認する <p>(事業所閉鎖時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者及び家族の安否・けがの有無の確認 ・職員の安否確認 ・被災状況確認 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の様子 ・困っていることや不足している物資 ・居場所(避難先) ・今後の連絡先・連絡方法 ・安否確認手段 利用者等 電話・メール 職員 LINE 電話 |
| 利用者・者・職員の 帰宅/残留支援 | <p>～利用者～</p> <p>原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準： <ul style="list-style-type: none"> ・道路状況(停電による信号機不滅等・道路等の混雑状況)を鑑み送迎バスが安全に運行できるようになった場合。 ・家族に直接引き継げる時。 <p>●事業所へ残留する利用者に対して支援を行う</p> |

| | |
|-----------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・支援内容：居住スペース・水・食料等の提供 <p>～職員～</p> <p>原則として利用者の安全及び下記の判断基準による安全が確認されるまで待機とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路状況（停電による信号機不滅等・道路等の混雑状況）を鑑み安全に帰宅できるようになった場合。 <p>●事業所へ残留する職員に対して支援を行う</p> |
| 被害状況の確認 | <p>●事業所内の被害状況を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認事項：建物・水・ガス・電気・電話 |
| 二次災害の防止措置 | <p>●二次災害発生の恐れのある箇所に対して、二次災害の発生防止措置を施す。</p> <p>●防止措置：水害、土砂災害等の危険個所の点検・ガス等の供給コックやバルブの閉鎖・建物被害の修繕</p> |
| 被害情報の収集 | <p>●風水害関連情報を収集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認事項：公共放送・インターネット・無線電話・最寄りの消防署・警察署等による情報収集 |
| 対外的な情報発信 | <p>●各関係機関等へ被害状況について連絡する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡手段：電話・メール・無線電話・自動車・徒歩等により連絡 |

●すばるワークセンター

| 項目 | 対応内容 |
|-----------|---|
| 避難 | <p>●水害発生時、2階へ避難する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設建物1階、各倉庫、駐車場、畑等で活動している場合は、施設建物2階に直ちに避難する。 |
| 安否確認 | <p>●利用者の安否を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休所日や欠席時は、ご家族、阿賀野市基幹相談支援センター、各相談支援事業所等、関係機関とも連携しつつ確認を行う。 <p>●職員とその家族の安否を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全確認手段：SNS、電話、メール、災害用伝言ダイヤル171 ・上記で安全確認がとれない場合は、発生後24時間以内にすばるワークセンターに出勤する。 |
| 利用児・者・職員の | <p><利用者></p> <p>●原則として安全が確認されるまで施設にて待機とする。帰宅の判</p> |

| | |
|-----------|--|
| 帰宅/残留支援 | <p>断は、下記の判断基準がいずれも満たされた場合に指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準 <ul style="list-style-type: none"> ①交通機関の復旧、幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。 ②家族に直接引き継げる時。 ●通所利用者に対して帰宅支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準に従い、無事帰宅できるよう家族との連絡調整、送迎や同行等の支援 ●事業所へ残留する利用者に対して支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・支援内容 <ul style="list-style-type: none"> ①居住スペース、医療品、寝具、水、食料の提供 ②生活面の介助 ③不安感等、精神的負担への配慮 <p><職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ●原則として安全が確認されるまで施設にて待機とする。帰宅の判断は、下記の判断基準がいずれも満たされた場合に指示する。 ・判断基準 <ul style="list-style-type: none"> ①交通機関の復旧、幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。 ②事業所に残る利用者の支援が不要、又は他者に引き継ぐこととなった場合。 ●事業所に残る職員に対して支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・水、食料、消耗品等、生活や日中活動に必要な物品の補充 ・個人に過度な負担が掛からぬよう、交代人員の配置 |
| 被害状況の確認 | <ul style="list-style-type: none"> ●拠点内の被害状況を確認する。 ・確認事項：建物、水道、ガス、電気、電話の状況 |
| 二次災害の防止措置 | <ul style="list-style-type: none"> ●二次災害発生の恐れのある個所に対して、二次災害の発生防止措置を施す。 ・防止措置：風水害の危険個所の点検、ガスや灯油等の供給コックやバルブの閉鎖、建物の修繕・ガラス窓の補強 |
| 被害情報の収集 | <ul style="list-style-type: none"> ●風水害関連情報を収集する。 ・確認事項：阿賀野市防災行政無線、公共放送、インターネット、最寄りの消防署や警察署による情報収集 |
| 対外的な情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ●各関係機関等へ被害状況について連絡する。 ・連絡手段：電話、メール、自動車・徒歩等による対面での連絡 |

●ハートワークくろかわ

| 項目 | 対応内容 |
|----------------------|--|
| 避難 | ●水害発生時、黒川公民館へ避難する。（日中体制） |
| 安否確認 | ●利用者の安否を確認する。 ●職員とその家族の安否を確認する。 |
| 利用児・者・職員の 帰宅/残留支援 | <p>～利用者～</p> <p>●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。</p> <p>・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。：家族に直接引き継げる時。</p> <p>●事業所へ残留する利用者に対して支援を行う</p> <p>・支援内容：居住スペース・医薬品・寝具・水・食料等の提供</p> <p>～職員～</p> <p>●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。</p> <p>・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。</p> <p>●事業所へ残留する職員に対して支援を行う</p> |
| 被害状況の確認 | <p>●拠点内の被害状況を確認する。</p> <p>・確認事項：建物・水・ガス・電気・電話</p> |
| 二次災害の防止措置 | <p>●二次災害発生の恐れのある箇所に対して、二次災害の発生防止措置を施す。</p> <p>・防止措置：水害、土砂災害等の危険個所の点検・ガス等の供給コックやバルブの閉鎖・建物被害の修繕</p> |
| 被害情報の収集 | <p>●風水害関連情報を収集する。</p> <p>・確認事項：公共放送・インターネット・無線電話・最寄りの消防署・警察署等による情報収集</p> |
| 対外的な情報発信 | <p>●各関係機関等へ被害状況について連絡する。</p> <p>・連絡手段：電話・メール・無線電話・自動車・徒歩等により連</p> |

| | |
|--|---|
| | 絡 |
|--|---|

●ふれ愛しうんじ

| 項目 | 対応内容 |
|----------------------|--|
| 避難 | <p>●水害発生時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者等避難」が発令後、直ちに「紫雲寺小学校」へ避難を開始する。 |
| 安否確認 | <p>●利用者の安否を確認する。</p> <p>●職員とその家族の安否を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安否確認手段：SNS・電話・メール・災害用伝言ダイヤル171 <p>上記で安否確認がとれない場合は発生後24 時間以内に各事業所へ来る。</p> |
| 利用児・者・職員の 帰宅/残留支援 | <p>～利用児・者～</p> <p>●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。：家族に直接引き継げる時。 <p>●通所利用児・者に対して帰宅支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援内容：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。：家族に直接引き継げる時。 <p>●事業所へ残留する利用児・者に対して支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援内容：居住スペース・医薬品・寝具・水・食料等の提供 <p>～職員～</p> <p>●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。 |

| | |
|-----------|--|
| | ●事業所へ残留する職員に対して支援を行う |
| 被害状況の確認 | ●拠点内の被害状況を確認する。 ・確認事項：建物・水・ガス・電気・電話 |
| 二次災害の防止措置 | ●二次災害発生の恐れのある箇所に対して、二次災害の発生防止措置を施す。 ・防止措置：水害、倒木等の危険個所の点検・ガス等の供給コックやバルブの閉鎖・ガスボンベの固定状態の確認・建物被害の修繕 |
| 被害情報の収集 | ●風水害関連情報を収集する。 ・確認事項：公共放送・緊急告知FMラジオ・インターネット・最寄りの消防署・警察署等による情報収集 |
| 対外的な情報発信 | ●各関係機関等へ被害状況について連絡する。 ・連絡手段：電話・メール・無線電話・自動車・徒歩等により連絡 |

●虹の家第一寮一号棟

| 項目 | 対応内容 |
|----------------------|--|
| 避難 | ●水害発生時 (グループホーム利用時) すぐに避難せず、事業所でテレビやラジオ等で情報の収集にあたる。状況を見極めへぶれすば胎内に避難する。 |
| 安否確認 | ●利用者の安否を確認する。 ・ご家族、虹の家、胎内市基幹相談支援センター、関係機関とも連携しつつ安否確認を行う。 ●職員とその家族の安否を確認する。 ・安全確認手段：SNS、電話、メール、災害用伝言ダイヤル171 ・上記で安全確認がとれない場合は、発生後24時間以内に第一寮一号棟に出勤する。 ●虹の家関係職員配置兼緊急連絡網を活用する。 |
| 利用児・者・職員の 帰宅/残留支援 | <利用者> ●原則として安全が確認されるまで施設にて待機とする。帰宅の判断は、下記の判断基準がいずれも満たされた場合に指示する。 ・判断基準 ①交通機関の復旧、幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。 |

| | |
|-----------|---|
| | <p>②家族に直接引き継げる時。</p> <p>●帰宅を希望する利用者に対して帰宅支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準に従い、無事帰宅できるよう家族との連絡調整を行う。 <p>●事業所へ残留する利用者に対して支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援内容 <ul style="list-style-type: none"> ①居住スペース、医療品、寝具、飲料水、食料の提供 ②生活面の介助 ③不安感等、精神的負担への配慮 <p>＜職員＞</p> <p>●原則として安全が確認されるまで施設にて待機とする。帰宅の判断は、下記の判断基準がいずれも満たされた場合に指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準 <ul style="list-style-type: none"> ①交通機関の復旧、幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。 ②事業所に残る利用者の支援が不要、又は他者に引き継ぐこととなった場合。 <p>●事業所に残留する職員に対して支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水、食料、消耗品等、生活や日中活動に必要な物品の補充 ・個人に過度な負担が掛からぬよう、交代人員の配置 |
| 被害状況の確認 | <p>●事業所内の被害状況を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認事項：建物・水・ガス・電気・電話 |
| 二次災害の防止措置 | <p>●二次災害発生の恐れのある個所に対して、二次災害の発生防止措置を施す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防止措置：風水害の危険個所の点検、ガス等の供給コックやバルブの閉鎖、建物の修繕・ガラス窓の補強 |
| 被害情報の収集 | <p>●水害発生時</p> <p>（グループホーム利用時）</p> <p>すぐに避難せず、事業所でテレビやラジオ等で情報の収集にあたる。状況を見極めへぶれすば胎内に避難する。</p> |
| 対外的な情報発信 | <p>●利用者の安否を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご家族、虹の家、胎内市基幹相談支援センター、関係機関とも連携しつつ安否確認を行う。 <p>●職員とその家族の安否を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全確認手段：SNS、電話、メール、災害用伝言ダイヤル171 ・上記で安全確認がとれない場合は、発生後24時間以内に第一 |

| | |
|--|---|
| | <p>寮一号棟に出勤する。</p> <p>●虹の家関係職員配置兼緊急連絡網を活用する。</p> |
|--|---|

●虹の家第一寮二号棟

| 項目 | 対応内容 |
|----------------------|--|
| 避難 | <p>●水害発生時</p> <p>(グループホーム利用時)</p> <p>すぐに避難せず、事業所でテレビやラジオ等で情報の収集にあたる。状況を見極め中条小学校に避難する。</p> |
| 安否確認 | <p>利用者の安否を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご家族、虹の家、胎内市基幹相談支援センター、関係機関とも連携しつつ安否確認を行う。 <p>●職員とその家族の安否を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全確認手段：SNS、電話、メール、災害用伝言ダイヤル171 ・上記で安全確認がとれない場合は、発生後24時間以内に第一寮二号棟に出勤する。 <p>●虹の家関係職員配置兼緊急連絡網を活用する。</p> |
| 利用児・者・職員の 帰宅/残留支援 | <p><利用者></p> <p>●原則として安全が確認されるまで施設にて待機とする。帰宅の判断は、下記の判断基準がいずれも満たされた場合に指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準 <ul style="list-style-type: none"> ①交通機関の復旧、幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。 ②家族に直接引き継げる時。 <p>●帰宅を希望する利用者に対して帰宅支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準に従い、無事帰宅できるよう家族との連絡調整を行う。 <p>●事業所へ残留する利用者に対して支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援内容 <ul style="list-style-type: none"> ①居住スペース、医療品、寝具、飲料水、食料の提供 ②生活面の介助 ③不安感等、精神的負担への配慮 <p><職員></p> <p>●原則として安全が確認されるまで施設にて待機とする。帰宅の判断は、下記の判断基準がいずれも満たされた場合に指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準 |

| | |
|-----------|--|
| | <p>①交通機関の復旧、幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。</p> <p>②事業所に残る利用者の支援が不要、又は他者に引き継ぐこととなった場合。</p> <p>●事業所に残留する職員に対して支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水、食料、消耗品等、生活や日中活動に必要な物品の補充 ・個人に過度な負担が掛からぬよう、交代人員の配置 |
| 被害状況の確認 | <p>●事業所内の被害状況を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認事項：建物・水・ガス・電気・電話 |
| 二次災害の防止措置 | <p>●二次災害発生の恐れのある個所に対して、二次災害の発生防止措置を施す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防止措置：風水害の危険個所の点検、ガス等の供給コックやバルブの閉鎖、建物の修繕・ガラス窓の補強 |
| 被害情報の収集 | <p>●風水害関連情報を収集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認事項：公共放送、インターネット、最寄りの消防署や警察署による情報収集 |
| 対外的な情報発信 | <p>●各関係機関等へ被害状況について連絡する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡手段：電話、メール、自動車・徒歩等による対面での連絡 |

●グループホーム光風

| 項目 | 対応内容 |
|----------------------|--|
| 避難 | <p>●水害発生時、2階へ避難する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設建物1階、車庫、その他建物外の敷地で活動している場合は、施設建物2階に直ちに避難する。 |
| 安否確認 | <p>●利用者の安否を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご家族、すばるワークセンター、阿賀野市基幹相談支援センター、各相談支援事業所等、関係機関とも連携しつつ安否確認を行う。 <p>●職員とその家族の安否を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全確認手段：SNS、電話、メール、災害用伝言ダイヤル171 ・上記で安全確認がとれない場合は、発生後24時間以内にグループホーム光風に出勤する。 |
| 利用児・者・職員の 帰宅/残留支援 | <p><利用者></p> <p>●原則として安全が確認されるまで施設にて待機とする。帰宅の判断は、下記の判断基準がいずれも満たされた場合に指示する。</p> |

| | |
|-----------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・判断基準 <ul style="list-style-type: none"> ①交通機関の復旧、幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。 ②家族に直接引き継げる時。 ●帰宅を希望する利用者に対して帰宅支援を行う。 ・判断基準に従い、無事帰宅できるよう家族との連絡調整を行う。 ●事業所へ残留する利用者に対して支援を行う。 ・支援内容 <ul style="list-style-type: none"> ①居住スペース、医療品、寝具、飲料水、食料の提供 ②生活面の介助 ③不安感等、精神的負担への配慮 <p><職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ●原則として安全が確認されるまで施設にて待機とする。帰宅の判断は、下記の判断基準がいずれも満たされた場合に指示する。 ・判断基準 <ul style="list-style-type: none"> ①交通機関の復旧、幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。 ②事業所に残る利用者の支援が不要、又は他者に引き継ぐこととなった場合。 ●事業所に残留する職員に対して支援を行う。 ・水、食料、消耗品等、生活や日中活動に必要な物品の補充 ・個人に過度な負担が掛からぬよう、交代人員の配置 |
| 被害状況の確認 | <ul style="list-style-type: none"> ●拠点内の被害状況を確認する。 ・確認事項：建物、水道、ガス、電気、電話の状況 |
| 二次災害の防止措置 | <ul style="list-style-type: none"> ●二次災害発生の恐れのある個所に対して、二次災害の発生防止措置を施す。 ・防止措置：風水害の危険個所の点検、ガス等の供給コックやバルブの閉鎖、建物の修繕・ガラス窓の補強 |
| 被害情報の収集 | <ul style="list-style-type: none"> ●風水害関連情報を収集する。 ・確認事項：公共放送、インターネット、最寄りの消防署や警察署による情報収集 |
| 対外的な情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ●各関係機関等へ被害状況について連絡する。 ・連絡手段：電話、メール、自動車・徒歩当による対面での連絡 |

●なないろキッズたいない

| 項目 | 対応内容 |
|----|------|
|----|------|

| | |
|----------------------|--|
| 避難 | <p>●水害発生時、2階へ避難する。</p> <p>・胎内市より避難指示が出た場合、胎内小学校へ避難する。</p> |
| 安否確認 | <p>●利用児・者の安否を確認する。</p> <p>●職員とその家族の安否を確認する。</p> |
| 利用児・者・職員の 帰宅/残留支援 | <p>～利用児・者～</p> <p>●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。</p> <p>・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。：家族に直接引き継げる時。</p> <p>●通所利用児・者に対して帰宅支援を行う</p> <p>・支援内容：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。：家族に直接引き継げる時。</p> <p>●事業所へ残留する利用児・者に対して支援を行う</p> <p>・支援内容：居住スペース・医薬品・寝具・水・食料等の提供</p> <p>～職員～</p> <p>●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。</p> <p>・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。</p> <p>●事業所へ残留する職員に対して支援を行う</p> |
| 被害状況の確認 | <p>●拠点内の被害状況を確認する。</p> <p>・確認事項：建物・水・電気・電話・インターネット</p> |
| 二次災害の防止措置 | <p>●二次災害発生の恐れのある箇所に対して、二次災害の発生防止措置を施す。</p> <p>・防止措置：水害、土砂災害等の危険個所の点検・建物被害の修繕</p> |
| 被害情報の収集 | <p>●風水害関連情報を収集する。</p> |

| | |
|----------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・確認事項：公共放送・インターネット・最寄りの消防署・警察署等による情報収集 |
| 対外的な情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ●各関係機関等へ被害状況について連絡する。 ・連絡手段： 電話・メール・自動車・徒歩等により連絡 |

●なないろキッズしばた

| 項目 | 対応内容 |
|----------------------|--|
| 避難 | <ul style="list-style-type: none"> ●水害発生時、2階へ避難する。 ・新発田市より避難指示が出た場合、外ヶ輪小学校へ避難する。 |
| 安否確認 | <ul style="list-style-type: none"> ●利用児・者の安否を確認する。 ●職員とその家族の安否を確認する。 |
| 利用児・者・職員の 帰宅/残留支援 | <p>～利用児・者～</p> <ul style="list-style-type: none"> ●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。 ・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。：家族に直接引き継げる時。 ●通所利用児・者に対して帰宅支援を行う ・支援内容：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。：家族に直接引き継げる時。 ●事業所へ残留する利用児・者に対して支援を行う ・支援内容：居住スペース・医薬品・寝具・水・食料等の提供 <p>～職員～</p> <ul style="list-style-type: none"> ●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。 ・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。 ●事業所へ残留する職員に対して支援を行う |

| | |
|-----------|---|
| 被害状況の確認 | <p>●拠点内の被害状況を確認する。</p> <p>・確認事項：建物・水・電気・ガス・電話・インターネット</p> |
| 二次災害の防止措置 | <p>●二次災害発生の恐れのある箇所に対して、二次災害の発生防止措置を施す。</p> <p>・防止措置：水害、土砂災害等の危険個所の点検・ガス等の供給コックやバルブの閉鎖・建物被害の修繕</p> |
| 被害情報の収集 | <p>●風水害関連情報を収集する。</p> <p>・確認事項：公共放送・インターネット・最寄りの消防署・警察署等による情報収集</p> |
| 対外的な情報発信 | <p>●各関係機関等へ被害状況について連絡する。</p> <p>・連絡手段：電話・メール・自動車・徒歩等により連絡</p> |

●なないろキッズついじ

| 項目 | 対応内容 |
|----------------------|--|
| 避難 | ●水害発生時、築地中学校屋上へ避難する。 |
| 安否確認 | <p>●利用児・者の安否を確認する。</p> <p>●職員とその家族の安否を確認する。</p> |
| 利用児・者・職員の 帰宅/残留支援 | <p>～利用児・者～</p> <p>●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。</p> <p>・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。：家族に直接引き継げる時。</p> <p>●通所利用児・者に対して帰宅支援を行う</p> <p>・支援内容：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。：家族に直接引き継げる時。</p> <p>●事業所へ残留する利用児・者に対して支援を行う</p> <p>・支援内容：居住スペース・医薬品・寝具・水・食料等の提供</p> <p>～職員～</p> |

| | |
|-----------|---|
| | <p>●原則として安全が確認されるまで待機とする。帰宅の判断は下記の判断基準を参考に指示する。</p> <p>・判断基準：交通機関の復旧・幹線道路等の混雑状況の緩和が図られ安全に帰宅できるようになった場合。</p> <p>●事業所へ残留する職員に対して支援を行う</p> |
| 被害状況の確認 | <p>●拠点内の被害状況を確認する。</p> <p>・確認事項：建物・水・電気・ガス・電話・インターネット</p> |
| 二次災害の防止措置 | <p>●二次災害発生の恐れのある箇所に対して、二次災害の発生防止措置を施す。</p> <p>・防止措置：水害、土砂災害等の危険個所の点検・ガス等の供給コックやバルブの閉鎖・建物被害の修繕</p> |
| 被害情報の収集 | <p>●風水害関連情報を収集する。</p> <p>・確認事項：公共放送・インターネット・無線電話・最寄りの消防署・警察署等による情報収集</p> |
| 対外的な情報発信 | <p>●各関係機関等へ被害状況について連絡する。</p> <p>・連絡手段：電話・メール・無線電話・自動車・徒歩等により連絡</p> |

●相談支援センターゆう

| 項目 | 対応内容 |
|----------------------|---|
| 避難 | <p>●水害発生時、2階すばるワークセンターへ避難する。</p> <p>●地震発生時、様子を確認し地域の緊急避難所へ避難する。</p> |
| 安否確認 | ●阿賀野市と連携し、独居・障害と高齢家庭へ電話で確認。 |
| 利用児・者・職員の 帰宅/残留支援 | <p>●職員・安全や周辺の状況を把握し、帰宅の判断は下記の通りとする。</p> <p>判断基準・交通機関の復旧・道路状況の安全確認</p> |
| 被害状況の確認 | ●事業所内外の状況確認・相談者の状況確認（訪問し実況確認を行う場合も） |
| 二次災害の防止措置 | ●危険個所の点検 |
| 被害情報の収集 | ●阿賀野市基幹相談等行政・関連事業所よりの情報収集。 |
| 対外的な情報発信 | ●各関係機関に被害状況について連絡（電話・メール等） |

3. 事業継続対応

(1) BCP の発動基準

BCP の発動及び解除は危機対策本部長が指示する。

| 段階 | 発動基準 |
|-------|--|
| BCP発動 | <p>以下の指標を総合的に勘案して、事業の継続に著しい影響があると判断される場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通網の寸断や職員の負傷等による出勤可能な職員の不足 ・ 法人所有建物や設備等の被害状況 ・ 電気・上下水道・ガス・通信等の重要インフラの途絶 ・ 食糧等の状況 |
| BCP解除 | 上記指標等の障害が回復し、事業への支障が解消したと判断される場合 |

(2) 法人全体で広範囲に風水害が発生した場合

①目標復旧時間と目標復旧レベル

法人全体で広範囲に風水害災害が発生した場合における継続・早期復旧すべき事業とそれらの目標復旧時間を法人全体分で以下のように定める。また、目標復旧時間は、A(即時)・B(3ヶ月以内)

| 事業所名 | 優先順位 | 目標復旧時間 |
|-------------|------|--------|
| 虹の家第一寮一号棟 | 最優先 | A |
| 虹の家第一寮二号棟 | 最優先 | A |
| グループホーム光風 | 最優先 | A |
| 虹の家 | 1 | B |
| すばるワークセンター | 2 | B |
| ハートワークくろかわ | 3 | B |
| ふれ愛しうんじ | 4 | B |
| なないろキッズたいない | 5 | C |
| なないろキッズついじ | 6 | C |
| なないろキッズしばた | 7 | C |
| 相談支援センターゆう | 8 | C |

②建物復旧に係る目安期間（業者への発注からの期間）

| 事業所名 | 建物延床面積（1階床面積） | 床上浸水 |
|------|---------------|------|
|------|---------------|------|

| | | 復旧期間 |
|-------------|-------------------|------|
| 虹の家 | 961.33㎡ (961.33㎡) | 80日 |
| すばるワークセンター | 478.25㎡ (28.35㎡) | 70日 |
| ハートワークくろかわ | 596.23㎡ (688.30㎡) | 80日 |
| ふれ愛しうんじ | 499.48㎡ (499.48㎡) | 80日 |
| 虹の家第一寮一号棟 | 242.22㎡ (242.22㎡) | 80日 |
| 虹の家第一寮二号棟 | 240.69㎡ (240.69㎡) | 80日 |
| グループホーム光風 | 364.05㎡ (181.35㎡) | 80日 |
| なないろキッズたいない | 126.00㎡ (0) | 0日 |
| なないろキッズついじ | 40.3㎡ (40.3㎡) | 70日 |
| なないろキッズしばた | 99.37㎡ (64.59㎡) | 70日 |
| 相談支援センターゆう | 77.10㎡ (77.10㎡) | 70日 |

4. 事業継続のための方針

(1) 重要施設被災時の事業継続戦略

●虹の家第一寮一号棟

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|-----------|--|
| ① | 現地復旧 | <input type="checkbox"/> 被災拠点を復旧する。 |
| ② | 二号棟で機能を代替 | <input type="checkbox"/> 一号棟で損失した機能を、二号棟で代替する。 |
| ③ | 虹の家で機能を代替 | <input type="checkbox"/> 一号棟で損失した機能を、虹の家で代替する。 |
| ④ | ふれすぽ胎内に避難 | <input type="checkbox"/> 現地が大規模に被災し復旧まで時間がかかる場合、一時的にふれすぽ胎内に避難する。 |

※応援職員は虹の家職員が当たる

●虹の家第一寮二号棟

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|-----------|---|
| ① | 現地復旧 | <input type="checkbox"/> 被災拠点を復旧する。 |
| ② | 一号棟で機能を代替 | <input type="checkbox"/> 二号棟で損失した機能を、一号棟で代替する。 |
| ③ | 虹の家で機能を代替 | <input type="checkbox"/> 一号棟で損失した機能を、虹の家で代替する。 |
| ④ | 中条小学校に避難 | <input type="checkbox"/> 現地が大規模に被災し復旧まで時間がかかる場合、一時的に中条小学校に避難する。 |

※応援職員は虹の家職員が当たる

●グループホーム光風

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|------------------|--|
| ① | 現地復旧 | □被災拠点を復旧する。 |
| ② | すばるワークセンターで機能を代替 | □グループホーム光風で損失した機能を、すばるワークセンターで代替する |
| ③ | かがやき苑体育館に避難 | □現地が大規模に被災し復旧まで時間がかかる場合、一時的にかがやき苑体育館に避難する。 |

※応援職員はすばるワークセンター職員があたる

(2) 通所事業等被災時の事業継続戦略

通所事業等被災時の事業継続戦略を以下のとおりとする。

○代替施設等にて事業継続する場合は、当該行政当局と協議する。

●虹の家

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|------|---|
| ① | 現地復旧 | □被災拠点を復旧する。 |
| ② | 現地復旧 | □送迎車両の確保ができれば、段階的に再開する。当初は、胎内市の利用者を受入れ、復旧の状況により、段階的に受入れ地域を拡大する。 |

●すばるワークセンター

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|------|--|
| ① | 現地復旧 | □2階部分で事業を継続しながら、被災拠点を復旧する。 |
| ② | 現地復旧 | □送迎車両の確保ができれば、段階的に再開する。当初は、阿賀野市の利用者を受入れ、復旧の状況により、段階的に受入れ地域を拡大する。 |

●ハートワークくろかわ

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|------|---|
| ① | 現地復旧 | □被災拠点を復旧する。 |
| ② | 現地復旧 | □送迎車両の確保ができれば、段階的に再開する。当初は、胎内市の利用者を受入れ、復旧の状況により、段階的に受入れ地域を拡大する。 |

●ふれ愛しうんじ

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|------|---|
| ① | 現地復旧 | □被災拠点を復旧する。 |
| ② | 現地復旧 | □送迎車両の確保ができれば、段階的に再開する。当初は、新発田市紫雲寺地区の利用者を受入れ、復旧の状況により、段階的に受入れ地域を拡大する。 |

●なないろキッズたいない

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|------|---|
| ① | 現地復旧 | □2階部分で事業を継続しながら、被災拠点を復旧する。 |
| ② | 現地復旧 | □送迎車両の確保ができれば、段階的に再開する。当初は、胎内市の利用者を受入れ、復旧の状況により、段階的に受入れ地域を拡大する。 |

●なないろキッズしばた

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|------|--|
| ① | 現地復旧 | □2階部分で事業を継続しながら、被災拠点を復旧する。 |
| ② | 現地復旧 | □送迎車両の確保ができれば、段階的に再開する。当初は、新発田市の利用者を受入れ、復旧の状況により、段階的に受入れ地域を拡大する。 |

●なないろキッズついじ

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|------|---|
| ① | 現地復旧 | □被災拠点を復旧する。 |
| ② | 現地復旧 | □送迎車両の確保ができれば、段階的に再開する。当初は、事業所近隣の利用者を受入れ、復旧の状況により、段階的に受入れ地域を拡大する。 |

(3) 訪問事業等被災時の事業継続戦略

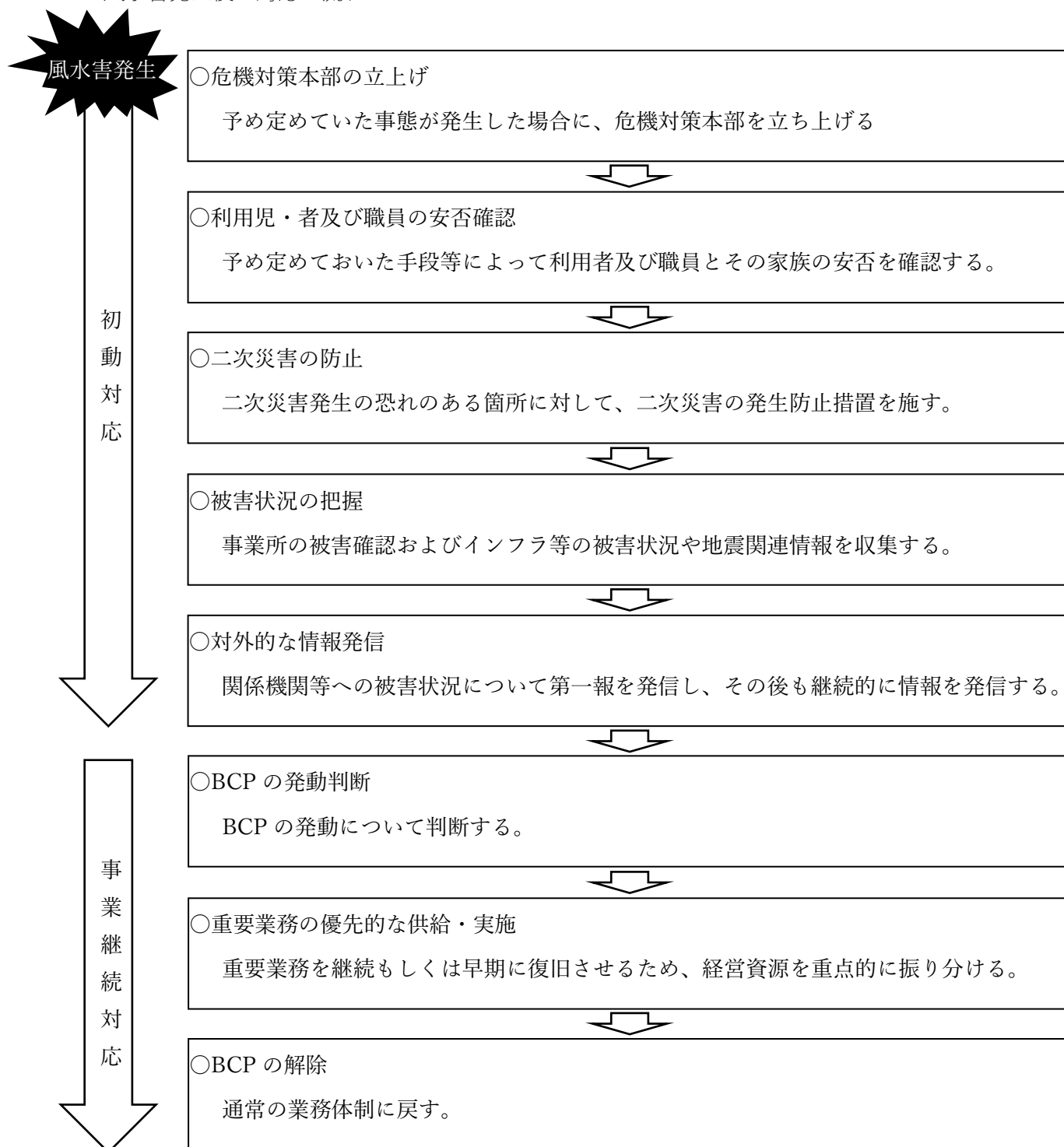
訪問事業等被災時の事業継続戦略を以下のとおりとする。

○代替施設等にて事業継続する場合は、当該行政当局と協議する。

●相談支援センターゆう

| 事業継続戦略 | | 対応内容 |
|--------|-----------------|--|
| ① | 現地復旧 | <input type="checkbox"/> 被災拠点を復旧する。 |
| ② | すばるワークセンターで機能代替 | <input type="checkbox"/> 相談支援センターゆうで損失した機能を、すばるワークセンターで代替する。 |
| ③ | 在宅で機能代替 | <input type="checkbox"/> 相談支援センターゆうで損失した機能を、相談支援専門員の自宅で代替する。 |

5. 風水害発生後の対応の流れ



感染症

1. 被害想定

(1) 想定する被害

新型インフルエンザ（感染症等）の発生、流行を想定

| | |
|---------|------|
| 発病率 | 25% |
| 欠勤割合 | 40% |
| 回復までの期間 | 7日 |
| 流行機関 | 約8週間 |

(2) 想定される被害状況

新型インフルエンザ（感染症等）が発生した場合の被害状況を、以下のとおり想定する。

| | |
|----------------------------------|---|
| 第1段階 (おおむね 海外発生 時) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 帰国者の大幅増大や検疫の強化により、国内の空港・港湾で相当な混雑が発生 ・ 国民の不安が増大し、国、自治体、保健所、医療機関等へ問い合わせが増大 ・ 食料品、生活必需品に対する需要が増加 ・ マスク、消毒液等の需要が増加 |
| 第2段階 (国内発生 時早期) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 国、保健所等への問い合わせが増大 ・ 発生地域における ・ 学校施設等の臨時休業、集会、興行等不特定多数が集まる場の提供する事業の休業 ・ 従業員の一部に感染者が発生 ・ 感染者の濃厚接触者への外出禁止が要請され、出勤が困難になる ・ 感染者以外にも濃厚接触者や学校閉鎖等により、欠勤者が増加 ・ 一部業者で不要不急の事業を縮小・休止する動き ・ 一部事業者で来訪者の入場制限、検温、手指消毒、マスク着用などを求める動き |
| 第3段階 (感染拡大 期・まん延 期・回復期) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 抗インフルエンザウイルス薬を求める患者が多数医療機関に来訪するなど、混乱が発生 ・ 医療機関従事者（医師、看護師等）の不足により、一部の診療を休止する医療機関が出現 ・ 発生地域における ・ 学校施設等の臨時休業、集会、興行等不特定多数が集まる場の提供する事業の休業全国に拡大 ・ 電力、上下水道、ガス、電話等のライフラインはおおむね維持 ・ 流通、物流の停止、生産、輸入の減少により食料品、生活必需品の救急不足が発生するおそれがある ・ マスク等の個人防衛具の購入が困難ななる可能性がある。 |

| | |
|--------------|---|
| | ・感染拡大に加え、学校・保育施設の臨時休業や介護サービスの不足により、従業員の欠勤増加 |
| 第段階 (小康期) | ・社会が安定し始める ・経済活動が一部安定化 |

2. 新型インフルエンザ（感染症等）発生直後の初動対応

（1）危機対策本部の設置

以下の事態が発生した場合に、危機対策本部を設置する。

- ・新型インフルエンザ（感染症等）が、法人内に感染者が発生した場合

※危機対策本部設置後は、拠点地域発生での流行状況等の情報収集を行い、法人内発生に備える。

危機対策本部の設置場所は以下のとおりとする。

- ・第一候補：法人本部（虹の家）
- ・第二候補：ふれ愛しうんじ
- ・第三候補：ハートワークくろかわ

（2）危機対策本部の業務内容

危機対策本部の業務内容は以下のとおりとする。

- ・事業所等との調整機能の確保を行う。
- ・当該事業所と協力して、被害等に関する情報の収集および伝達を行う。
- ・関係機関への連絡・調整・報告を行う。
- ・理事会・評議員会への報告を行う。
- ・その感染等への対応に関して必要な事項を行う。

（3）初動対応

危機対策本部設置後の職員の初動対応は以下のとおりとする。

○対策本部関係者のみの参集の場合

- ・危機対策本部要員は各事業所の管理者並びに危機対策委員の2名を基本とする。

3. 事業継続方針

（1）BCPの発動基準

BCPの発動および解除は危機対策本部長が指示する。

| 段階 | 発動基準 |
|-------|---------------------------------|
| BCP発動 | その時点での発症者の割合が利用者30%、職員20%を超えた場合 |
| BCP解除 | 利用者・職員10%以下まで沈静化すればBCPを解除する。 |

※BCPの発動にあたっては、障害福祉サービス事業・障害児通所支援事は新潟県障害福祉課の

意見を、相談支援センターゆうは阿賀野市社会福祉課の意見を確認し判断する。

(2) 法人全体で広範囲に新型インフルエンザ（感染症等）発が発生した場合

①事業継続と事業停止について

法人全体で広範囲に新型インフルエンザ（感染症等）が発生した場合における継続・停止する事業を法人全体で以下のように定める。

| | | |
|----|--------------------|-------------|
| 継続 | 共同生活援助 | 虹の家第一寮 |
| | | グループホーム光風 |
| | 特定相談支援 | 相談支援センターゆう |
| 停止 | 就労継続支援 B 型 生活介護 | 虹の家 |
| | | すばるワークセンター |
| | | ハートワークくろかわ |
| | | ふれ愛しうんじ |
| | 放課後等デイサービス | なないろキッズたいない |
| | | なないろキッズついじ |
| | | なないろキッズしばた |

②職員の配置について

事業継続事業所の事業を継続するために、事業停止事業所から事業継続事業所に以下のように職員を配置する。

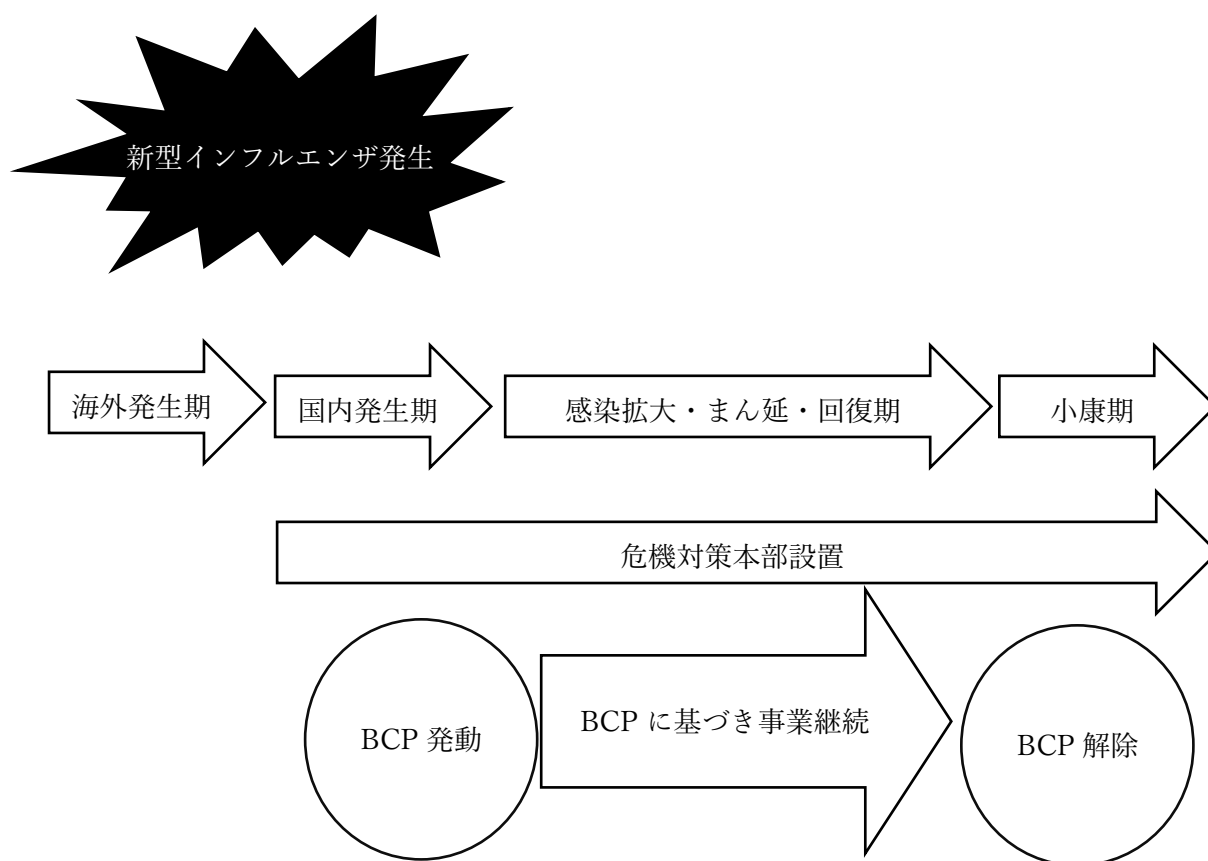
| 事業継続事業所 | 配置事業所 |
|------------|------------------------|
| 虹の家第一寮 | 虹の家、ハートワークくろかわ、ふれ愛しうんじ |
| グループホーム光風 | すばるワークセンター |
| 相談支援センターゆう | なし |

③職員の配置について

事業継続事業所の事業を継続するために、事業停止事業所の備品、備蓄食料等を事業継続事業所に以下のように提供する。

| 事業継続事業所 | 配置事業所 |
|------------|------------------------|
| 虹の家第一寮 | 虹の家、ハートワークくろかわ、ふれ愛しうんじ |
| グループホーム光風 | すばるワークセンター |
| 相談支援センターゆう | なし |

4. 新型インフルエンザ（感染症等）発生後の対応の流れ



別冊資料

1. 市町村別ハザードマップ

- (1) 別冊 1-1) 胎内市防災ガイドブック
- (2) 別冊 1-2) 新発田市ハザードマップ（一式）
- (3) 別冊 1-3) 阿賀野市ハザードマップ・洪水避難地図（一式）

2. 障害福祉サービス施設・事業所職員のための感染対策マニュアル

- (1) 別冊 2-1) 【通所系】 障害福祉サービス施設・事業所職員のための感染対策マニュアル
- (2) 別冊 2-2) 【入所系】 障害福祉サービス施設・事業所職員のための感染対策マニュアル
- (3) 別冊 2-3) 【訪問系】 障害福祉サービス施設・事業所職員のための感染対策マニュアル

改訂履歴

| 版数 | 改訂日 | 改訂内容 |
|-------|--------|---------------------------|
| 第 1 版 | R6.2.1 | 新規作成 |
| 第 2 版 | R6.4.1 | ハートワーク高浜改め、ハートワークくろかわ新築移転 |



令和6年4月1日